

褥瘡発生0を目指して～褥瘡に対する意識向上～

3階西病棟 ○淵脇 風花、渡邊 隆明、篠原 美咲、野中智心

【目的】

褥瘡は仙骨部や大転子部、仙骨、踵部に発生しやすく、貧血や栄養状態の悪化、長時間の同一部位の圧迫・摩擦により生じる。内閣府統計では、令和2年度の高齢化率は28.8%であるがその中でも朝倉市の高齢化率は34.9%と深刻である。当病院は地域医療支援病院であり、高齢者を多く受け入れており、高齢者の入院が多い。また、低栄養状態や寝たきりが大半を占め褥瘡発生リスクが非常に高い状況にある。

当病棟では褥瘡発生リスクがある患者に対してエアマットの導入、皮膚保護用品の使用、毎朝・夕のオムツ交換時の保湿剤塗布を行っている。その反面、予防ケアをしているからと安心し、発見が遅れるケースがある。また、過去に3a以上の褥瘡も発生しており、褥瘡のハイリスク状態を早期発見する事が褥瘡悪化の予防、患者の苦痛やスタッフの業務改善にも繋げたいと考えている。また、アンケート調査の結果から当病棟では褥瘡発生時の報告書の記入や一連の流れの周知が欠けており、褥瘡評価が予定日に行われていない現状があった。今回スタッフに対し褥瘡に関する調査を行い、問題が明確になった。そこでSWOT分析（SWOTクロス）を用い、更に効果的な対策を考える事ができたので報告する。

【方法】

1、研究デザイン：質的研究

2、対象：3階西病棟看護師

期間：2021年10月1日～11月31日

場所：3階西病棟

3、データ収集方法：質問紙法

① 病棟看護師に褥瘡予防に対する意識調査のアンケート作成、実施

② アンケート結果を元にSWOT分析を行う

【結果・考察】

当看護研究メンバーはSWOT分析の弱点克服・転換に着目し、今後の目標、計画を立案した。SWOT分析の機会は1. 朝礼での褥瘡、スキンケア患者の周知。2. ホワイトボードに褥瘡、スキンケア患者の記載。3. 褥瘡回診（不定期）。4. WOCナースの介入。5. スキンケアリンクナース3名。6. 褥瘡専任活動（1/回週）。7. 新しいエアマット、体交枕の導入。8. 清拭時、ケア時の保湿剤の塗布。9. 主治医へ保湿剤の依頼ができるであった。弱みは1. 予防ケアを行っているスタッフの偏り、差がある。2. 褥瘡評価日の内容の理解が50%曖昧。3. 褥瘡発見時の流れを理解しているスタッフが30%。4. 褥瘡新規発生率が多い。5. エアマット動作の確認不足。6. 褥瘡発生後のカンファレンスが行えてない。7. 褥瘡患者・スキンケア患者の把握不足であった。これらをクロス分析する事で褥瘡、スキンケア患者の把握の強化、病棟スタッフで同じ予防ケアを行う、当病棟の褥瘡発生患者を減らす為の効果的な対策を立案した。

目標：新規褥瘡発生件数を1人/月に減らす。悪化する前に予防ケアを徹底する。

褥瘡はいったん発生すると治癒させることが難しく、進行すれば生命の危機をもたらす病態で、治療には多大な時間と治療費が掛かる。今回SWOT分析を行う事でスタッフの褥瘡予防に対する傾向、当病棟の褥瘡予防ケアに対する着眼点を明確化する事ができた。スキンケアリンクナースの協力、支援をいただき今後目標、計画を実行し、褥瘡予防ケアの強化に努める。